特定非営利活動法人　日本免疫学会

2022 年度　前期　Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	辻　英輝	**会員番号**	0035758
申請者の所属・職名	京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学・助教		
出席会議名	European League against Rheumatic Diseases (EULAR) 2022 Congress		
発表論文タイトル	The association of autoantibodies with morbidity and mortality of scleroderma renal crisis in Japan		

実施結果：

この度は 2022 年度前期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award に選出頂き誠にありがとうございました。岸本忠三先生をはじめ、選考委員の先生方、御推薦頂いきました大村浩一郎先生、研究にご協力いただきました先生方に深くお礼申し上げます。

European League against Rheumatic Diseases (EULAR) 2022 は欧州を中心とした世界中の免疫に関わる医師、科学者が参加する学会です。今年度は 2022 年 6 月 1 日から 6 月 4 日までデンマーク・コペンハーゲンとオンラインによるハイブリッド開催がなされました。今回の学会を通して世界トップクラスの免疫学を全身で感じ、大きな刺激を受けることができました。

私は全身性強皮症の強皮症腎クリーゼ(scleroderma renal crisis, SRC)に関して、日本の集団での SRC の発症や予後と自己抗体の関連性について報告しました。欧米諸国と本邦では全身性強皮症の臨床像や自己抗体の種類と頻度に異なりがみられます。これまで、全身性強皮症に特異的な自己抗体のなかで、欧米諸国では抗 RNA ポリメラーゼ III 抗体と SRC の関連性が報告されていました。一方、本邦においては全身性強皮症の大規模なデータベースが乏しいこと、病院では全ての強皮症関連自己抗体の測定が十分にできなかった背景があり、本邦における自己抗体と SRC との関連性は十分検証されておりませんでした。そこで、京都大学医学部附属病院における全身性強皮症 330 例のデータベースに自己抗体情報と臨床情報を充実することとしました。解析の結果、本邦では SRC の発症と予後には抗 RNA ポリメラーゼ III 抗体や抗トポイソメラーゼ I 抗体が関与することが明らかとなりました。

全身性強皮症は難治性疾患でありさらなる病態解明が求められています。全身性強皮症は人種差や地域差が存在するため、可能であれば海外の研究者との共同研究で日本以外の集団を含めた解析を行いたいと考えています。

最後になりましたが、日本免疫学会に深く感謝いたします。今後も、免疫学の発展に貢献できるように努めます。